



A 女夫淵駐車場の休憩所。左手すぐに女夫淵橋があり、渡り終えると右手に遊歩道入口（右写真）がある。



→ わって、これを登り切れば、鉄の階段は終わって、山道になる。



B-C 一部こんな場所もある。



D 鬼怒の中將乙姫橋を渡る。



F 遊歩道入口から鬼怒の中將乙姫橋までの、最高地点。そこにある案内板。日光澤温泉まで4.5kmと書かれている。



G 昼食を終えて、水際の旧道に行く。歩き易い道だ。



I コザ池沢の滝で小休止。小さいが趣のある雰囲気を持っている。前に来た時には、滝壺に丸太はなかったのだが。



P 八丁の湯の前の広場で小休止。加仁湯を経由して日光澤温泉までは、所要時間30分余。毎回ここで休み、あとは休みなしに行くのが恒例になっている。



P 加仁湯近くの道端に、クリンソウの花が群れて咲いていた。



R 奥鬼怒遊歩道が尽きたところで、左に坂道がある。ここが、日光澤温泉だ。



R 日光澤温泉到着。右奥に屋根状のものが見えるが、上の露天風呂の脱衣場。その3メートルほど下の段に、下の露天風呂がある。

夕食まではまだたっぷり時間がある。風呂で汗を流して、冷たいビールをグイーと飲もう。

上の露天風呂

下の露天風呂



無色透明の湯

白濁した湯

夕餉が始まった。6時。外はまだ明るい。ビールで乾杯。これが楽しみなのだ。



(6月26日。翌27日に続く)



日光澤温泉の玄関を出て小さい坂を下りると右手に、別館への床部分がない渡り廊下がある。そこを潜り抜けて登山道が始まる。

階段状の道を幾段か登ると鬼怒沼湿原への道が右に別れる。まっすぐに行くと、根名草山・温泉岳・金精峠へと縦走する道だ。



すぐに広場があり、クリンソウの花盛りの中に温泉神社が建っている。日光澤温泉の二階建ての母屋の屋根とほぼ同じ高さがある。鬼怒沼湿原には、この神社の左の道を進む。



すぐに箴音橋という立派な橋を渡る。まもなく右から崩れてきた土砂の危なっかしい道を進み、丸沼への分岐点(右写真)に着く。

左に進むとヒナタオソロシの滝展望台を経て群馬県の丸沼へ通じている。

地図を見ると解るが、ヒナタオソロシの滝はこれから登る側の尾根の谷にかかる滝で、谷を挟んでしか見ることができないのだ。

その代わり、というか鬼怒沼湿原に登る途中には、オロオソロシの滝展望台がある。オロオソロシの滝もやはり谷を挟んで反対側からしか望めない。

ヒナタは日向で、日当たりのよい滝、オロは裏側で日当たりが悪いという意味があるそうだ。オソロシは近づくことができない、「恐ろしい」の意味だろう。



丸沼分岐からは、急な斜面をシグザグと折り返しながら登らなければならない。

ちょっとした手違いで、小一時間遅れて追いついたが、先行の4名は坂の途中で休憩していた。一人が体調不良というので、その地点で引き返すことにして、下る。

丸沼分岐へと戻り、丸沼方面へ行く吊り橋を渡ってみた。ヒナタオソロシの滝展望台まで行こうと提案したが、賛同者なし。渡ったところで引き返した。



丸沼分岐から日光澤温泉へ戻るとき、左から沢が合流している。その沢にかかる滝で、珍しい形をしている。ノシ滝という名前がついている。熨斗のように見えるから付けられたのだそうだ。

箴音橋に帰ってきた。ここからは左奥、木々の葉の間から日光澤温泉の屋根が見えている。

缶ビールと酒を頼んで、時間は早かったが屋食にした。ゆったりした時間が流れていく。



ああ、極楽、極楽。食事が済んだら、また風呂へ直行だ。

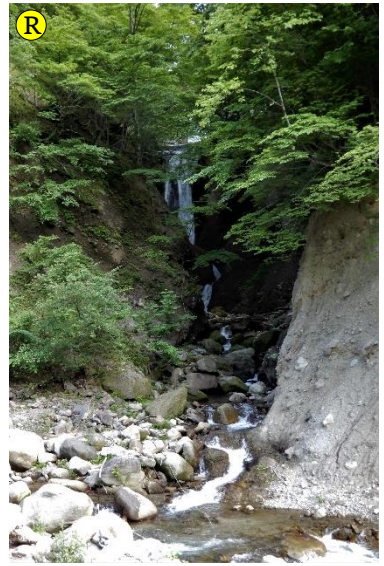
(6月27日。翌28日に続く)



R

8月28日。
朝、外で出発の準備をしていると、主人夫妻が見送りに出てきて、シャッターを押してくれた。
犬は玄関で店番勤務中のサンボ。

右の写真は、日光澤温泉の対岸の日光沢にある滝で、奥鬼怒遊歩道の終点、宿を出て坂を下りるとすぐに見えてくる。日光沢ノ滝と呼ばれている。初めて見た感がある。



R



N

← 一部分を見ると、日本庭園のようなこんな場所がある。足元は河原の石がゴロゴロしていて注意しなければならないが、気分よく歩ける道だ。



M



M

やがて広い河原の中を歩くようになる。岸边には旧道が残っていて、寂れた様子も一つの風景として興味がある。



M～L

河原から離れると、古い道を行くようになる。右の崖下に鬼怒川の流れがあって、瀬音が聞こえてくる。



M～L



K

二つ岩橋を渡る5人を、阪西さんが写してくれた。

下の写真は、写し終えて二つ岩橋を渡ってくる阪西さん。



J



J

ふと道の下を見ると、温泉が湧いているように見えた。河原に降りて触れてみるとほのかに暖かい。地図にも温泉の印が記入されているが、湯舟を掘って入るには湧出量が少ない。



K



K



D

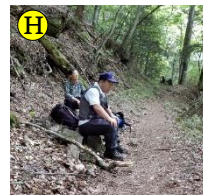
鬼怒の中将乙姫橋への下り。結構急坂だ。

鬼怒の中将乙姫橋を渡る。



I～H

明るい谷間を行く。



H



H

そして休憩したところは、往路で苦労してよじ登った場所。



C

ここからこの坂を下り、鉄の階段を下りれば、奥鬼怒遊歩道入口に戻る。



A

女夫淵駐車場に到着。今回の旅も無事に終わった。

参加者

- 樋口 昭 川村 吾一
- 阪西 保 勝沼 正敬
- 星 富 夫
- 大嶋 寛